

アンケート結果からみる透析室災害対策の現状 ～区南部ブロック活動を始めるにあたって～

昭和大学病院 ME室 腎臓内科

高橋美香 / 本島沙季 / 村上織恵 / 柿沼 浩 / 横地章生 / 秋澤忠男

【はじめに】

当院は、東京都区南部ブロックに分類される品川区・大田区エリアの災害拠点病院の一つとして役割を担っている。

しかし、災害の被害が大きいほど自施設のみでの対応は難しく、特に血液透析に関しては近隣施設との連携が重要となってくる。

そこで、近隣施設にアンケートを実施し、災害対策の現状把握と東京都区南部ブロックの今後の活動について検討したので報告する。

【対象と方法】

一昨年、区南部ブロックの災害活動の第一歩として、区南部地域災害セミナーを実施した。

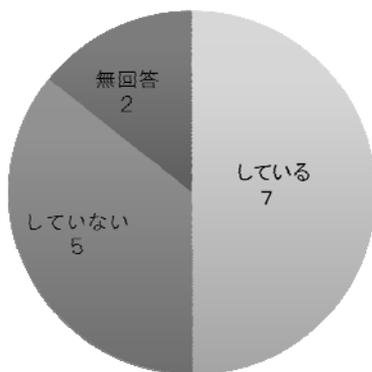
内容は、災害に対する自施設・近隣ブロック・品川区における各取り組みについて現状を報告、意見交換を行った。

このセミナーに参加した14施設(67名)を対象に災害に関するアンケートをとり、集計結果より検討した。結果は施設毎に集計。

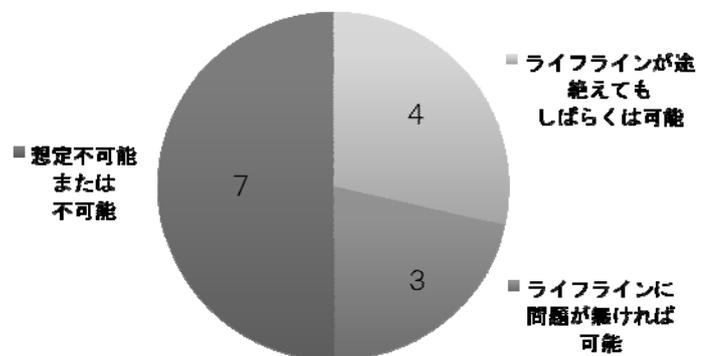
【結果】

1.施設設備

設備に対して減災対策をしていますか

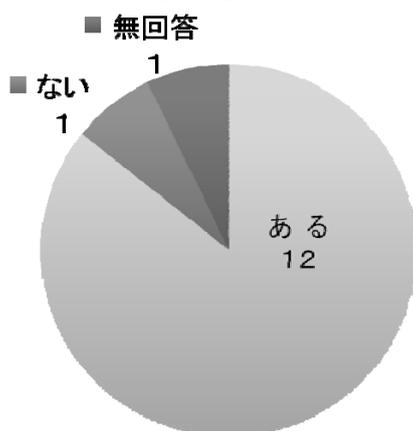


大規模災害が起きた場合 施設的に透析が可能だと思いますか

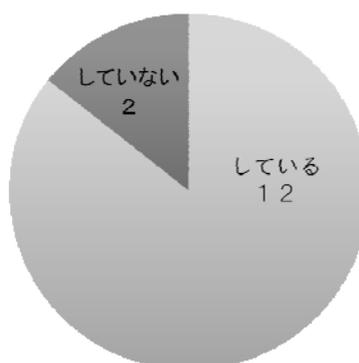


2.災害訓練

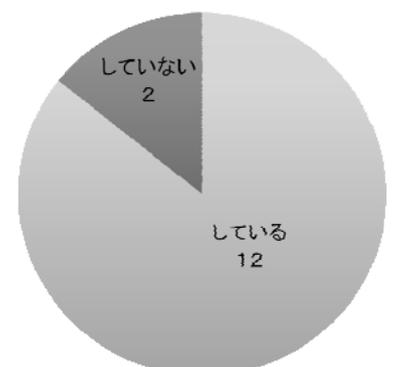
災害時マニュアルはありますか



災害訓練を実施していますか



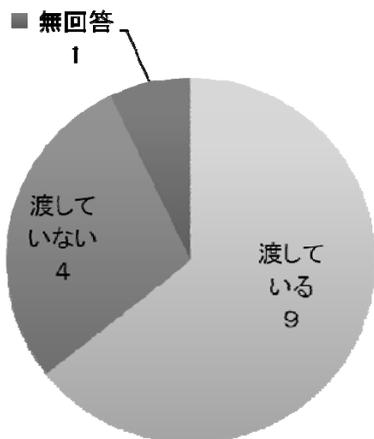
日本医師会災害情報ネットワーク訓練に参加していますか



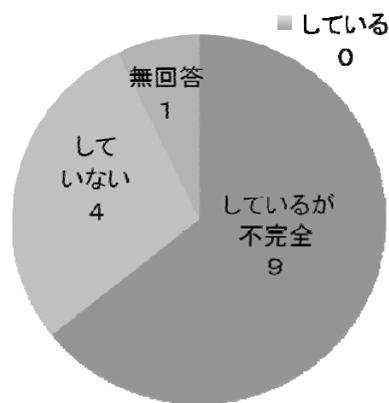
【結果】

3.患者教育

患者に透析手帳またはカードを渡していますか

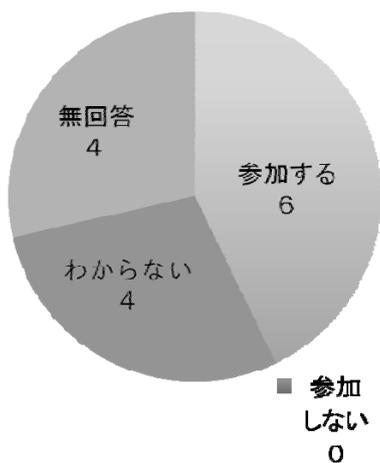


災害時、透析を受けるまでの流れと教育は徹底していますか

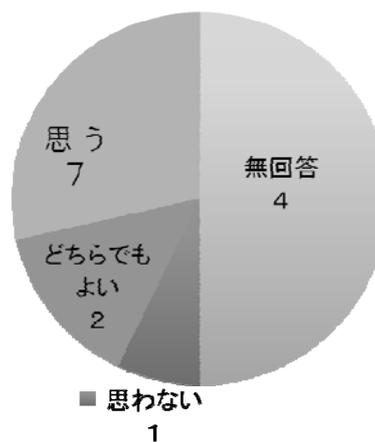


4.区南部ブロックでの災害対策に対する意識調査

ブロック会議があれば参加しますか

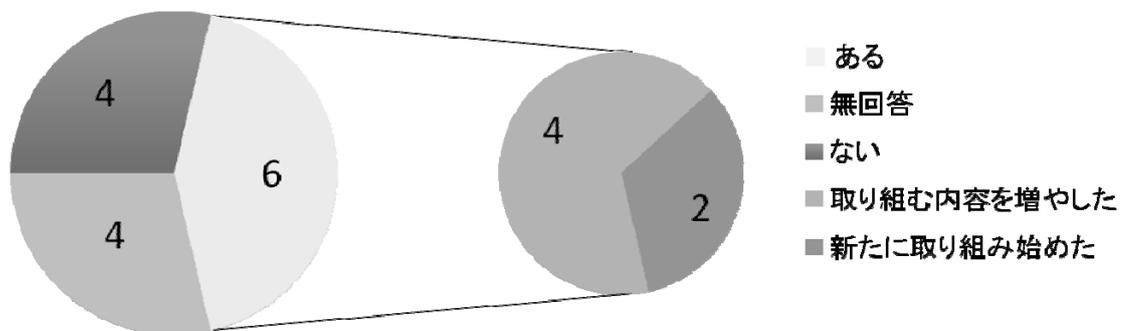


ブロックでの災害訓練を実施した方がよいと思いますか



5.セミナー参加後の取り組み

災害セミナー参加後、取り組んだことはありますか



【考察】

- ・結果1より、設備に対して減災対策を行っているのは半数で、透析施行が困難な施設がほとんどであることより、まずは各施設の被害を最小限に抑える対策の強化が必要だと感じた。
- ・結果2、3より、災害訓練に対し患者教育が徹底されていないため、患者が透析を受けるのに困らないよう、災害時想定される状況や対応などについて十分な説明と指導を徹底する。
さらに、透析手帳やカードを渡すだけでなく、ブロック内で統一した情報交換手段の確立が必要と考えられた。
- ・結果4、5より、セミナー参加後、新たに取り組みを始める施設が見られたことより定期的にセミナーを実施することで、災害に対する意識を高め、減災対策や患者教育など新たに取り組む施設の増加が期待できる。

【今後の展望】

- ・災害拠点病院が中心となり、定期的なセミナーを実施していくと共に、近隣施設と連携の取りやすい環境作りを行う。
- ・ライフラインの優先確保、患者移送や安否確認などは、大規模災害になるほど行政に依存する割合が高くなるため、行政とも緊密な連携体制がとれるようブロックで働きかけを行っていく。

【結語】

東京都区南部ブロックとして活動を始めたばかりで、課題は山積みである。
しかし、災害はいつ訪れるかわからず、早急な対策が必要なため、行政や各施設に協力を呼びかけ、積極的な活動を継続していきたい。